CODE 海外災害援助市民センター
2019 年度　事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

＊2017 年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003 年	2024 年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008 年	2021 年度末
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011 年	2020 年度末
	4	インドネシア救援プロジェクト（ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波）	2018 年	2020 年度末
	5	中国新型肺炎（新型コロナウイルス感染症）救援プロジェクト	2020 年	2022 年度末
●終了プロジェクト	6	青海省救援プロジェクト	2010 年	2019 年度末
	7	ネパール地震救援プロジェクト	2015 年	2019 年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者はのべ 550 世帯（2020 年 3 月時点）。
実施内容	●ぶどう畑再生支援事業 ＊これまでの経緯 1. 現地の状況 2003 年から上記の地域でコーポラティブシューラ（ぶどう生産者協同組合）を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への小規模融資をスタートした。融資を受けた世帯から返済してもらった資金を、新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、のべ 550 世帯が融資を受けた（2020 年 3 月末時点）。カウンターパートであるNGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援してきた。

	2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、2010 年頃から主要な市場であったパキスタンへの輸出が閉ざされ、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。 この 10 年でミールバチャコット地域に帰還した住民も多く、人口は増えている。本来この地域には 5000 世帯あるが、約 2000 世帯はカブール市の郊外に住み、またパキスタンやイランに出稼ぎに行っている人も少なくない。 現在、年間 50t のレーズンが組合に加盟している農家によってつくられているが、1/3～1/4（10t～15t）が有機栽培で作られている。 近年は、天日干しからレーズンハウス（貯蔵庫）で作るようになってきているが、ハウスは高額で多くの人は購入できない。 通常、生のぶどうを収穫後すぐに売り、余ったものをレーズンにするが、生は 14kg＝120 アフガニ（2＄）と非常に価格が安く、レーズンは 1kg＝１＄と高くなる。 ほとんどの農家は、100 アフガニ（1.5＄）から 500 アフガニ（7.5＄）ほどの少額を組合に返済しているが、2016 年度、組合は 50000 アフガニ（750＄）を回収し、新たな 10 世帯に各 5000 アフガニ（75＄）を貸し出している。2017 年度から 180 世帯が返済できていない状況が起きている。 また、販路であったパキスタンとの国境は依然として閉鎖されており、物資の 95%を外国に依存するアフガニスタンは、国内で物資不足のため価格高騰を引き起こし、市場に大きな影響を及ぼしている。 2017 年 6 月に長年 CODE のカウンターパートとして奔走していたルトフ・ラフマンさんが交通事故で逝去された。その後は、ご子息の Fardin さんが引き継ぎ、レーズン輸出をサポートしていただいている。 2019 年度後半は、新型コロナウイルス感染の影響で Fardin さんもミールバチャコットに行くことができない状況にある。 2. ミールバチャコット産有機レーズンの輸入・販売の状況 2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」（熊本市）の関係者とつながり、ミールバチャコット産の有機干しぶどう（レーズン）を日本で商品化することとなり、2013 年 12 月に 20kg のレーズンの輸入を開始し、2014 年 3 月から 1 袋 100g の真空パック（550 円）の販売を開始した。 近年、レーズンの原価や輸送費が徐々に上昇してきたことから、2018 年 1 月より販売価格 100g/550 円から 650 円に変更した。また、2017 年度 12 月より 20g/150 円の小さいサイズの販売も開始した。 以下がこれまでの輸入・販売実績： 2013 年度　20 kg （11 月輸入スタート） 2014 年度　220 kg （50 kg×2 回、40 kg×1 回、20 kg×4 回）

	2015 年度　80 kg　（20 kg×4 回） 2016 年度　80 kg　（20 kg×4 回） 2017 年度　60 kg　（20 kg×3 回） 2018 年度　60 kg（20 kg×3 回） 2019 年度　40 kg（20 kg×2 回） 総計:　560 kg アフガニスタンのレーズンは、味に定評をいただき、規模はまだ小さいが、確実に販売実績を伸ばしてきてきた。2015 年 8 月より個別注文以外の委託販売も始まった。ケペスという東京でフェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社の岡本玲子さんが、毎月 30p～50p（3 kg～5 kg）の定期購入をしてくれているが、2019 年度は注文が減少し、輸入も 2 回、40kgにとどまった。 その他、これまでにコープこうべのイベントや食と国際協力などのイベントでのレーズン販売を通してアフガニスタンの状況を知ってもらう機会を設けてきた。 〇イベントでのレーズン販売 5/11　COMING KOBE にブース出展（被災地 NGO 協働センターとコラボ）（立部） 6/8　CODE のタベ 7/19　コープこうべ平和のつどいでレーズン販売（上野） 11/30　ひょうご防災フェスタに参加（上野、立部） 12/15　ワンワールドフェスタ for Youth にブース出展（吉椿、立部、原田、柳瀬） 1/17　阪神・淡路大震災祈念行事ブース出展（上野、立部） 2/16　コープこうべ第 3 地区　ふれあいのまつりで販売（上野） 2/29　コープこうべ「震災 25 年のつどい」で販売（上野） 3.　食と国際協力などでのアフガニスタンの現状を知る機会の提供とレーズン販売 これまでに「れーずんの会」や「食と国際協力」で年 1～2 回、レーズンを使った食を味わいながら、アフガニスタンの状況を発信とレーズン販売の機会を作ってきた。 ＊これまでの食と国際協力（れーずんの会）の開催状況（講師はいずれも村井理事） 第 1 回食と国際協力（れーずんの会 1）　2014/3/28　参加者 18 名 第 2 回食と国際協力（れーずんの会 2）　2014/4/25　参加者 19 名 第 8 回食と国際協力（れーずんの会 3）　2014/10/16　参加者 11 名 第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4)　2015/4/16　参加者 9 名 第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5)　2015/11/19　参加者 8 名 第 22 回食と国際協力　2016/4/14　参加者 12 名 第 32 回食と国際協力　2017/4/20　参加者 8 名 第 41 回食と国際協力　2018/4/19　参加者 11 名

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震の被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	＊これまでの経緯 2008 年の四川大地震直後から CODE はスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添い、被災者との関係を築いてきた。 その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011 年 6 月に着工、9 月に完成した。 センターは、森に囲まれた村の中心部（4 組）にあり、駐車スペースなど総面積約 1000 平米、築面積約 380 平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築された。中国の伝統木造様式である三合院（3 棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン）で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持っている。 2011 年 3 月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金 2 万 8000 元（約 36 万円）が届いた。 2011 年 9 月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事（当時）らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。 その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽（中国式アグリツーリズム）」として村の祭りや政府や村民の会議の場として活用してきた。 2012 年 3 月には、金沢大学との協働で光明村の被災者 3 名を日本に招き、能登半島地震（2007）や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。 2013 年 2 月には CODE10 周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震における CODE との活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10 周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。 2013 年 9 月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史（中国社会科学院）を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約 20 名ほどの観光客が来ており、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきていたが、村長が職を辞した事や道路整備、出稼ぎ住民の多さなどの理由から、未だ安定した状態とは言えない。

	2014 年より、今後の日中の災害救援における民間の連携を深めるために両国の NGO やボランティアが共に学び合う場を企画し、2015 年 3 月、6 月に「日中 NGO・ボランティア研修交流事業」を開始した。3 月の第 1 回は日本の学生 6 名が四川の被災地を訪問し、日本と中国の絆の象徴として光明村で桜の木を記念植樹した。また、6 月には第 2 回として四川の NGO 関係者を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越を訪問、視察し、専門家による講義を受け、今後の災害救援において連携を深める事ができた。 2016 年は、第 3 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、日本の若者 6 名が四川省を訪れ、被災地の視察、被災者との交流、NGO との学び合いを行った。同年は、元 CODE ボランティアの岸本くるみさんにご協力いただき防災教育を通じて NGO や社会的企業との交流を行い、現地の NGO は日本の防災教育の教材に非常に関心を示している。 2017 年度は、これまで 3 回の日中 NGO・ボランティア研修交流事業によって、2017 年度 6 月に「中日減災・防災国際交流事業」（以下）を実施し、中国の学校関係者や NGO スタッフ 23 名を招へいし、神戸で防災教育に関する研修を行うに至った。 また、2018 年 3 月には第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、神戸女子大学、関西学院大学、神戸大学、愛媛大学など十代の学生を中心に四川の被災地を訪問し、防災教育を行う雅安市興賢小学校での防災教育の交流を行った。また、四川省防災・減災教育館では、日中での防災教育の研修について議論を交わす事もできた。 2018 年 3 月 22 日からは、未来基金フィールドワーク「食による村おこし」の企画で神戸大学の学生 4 名が、四川省の被災地を訪れ、食や文化を学び、光明村の農家楽運営を共に考えた。その中で、村のひとりの女性の素食（ビーガン・菜食）などを使った農家楽の特色にするなど新たな可能性なども見えてきた。また、2018 年は、四川地震から 10 周年ということで大阪大学や兵庫県立大学、龍谷大学などの専門家の視察のアテンドも行った。また、震災直後に被災地でボランティアを行った日本人、中国人たちと光明村で交流会を開催した。 2019 年度は、現地の NGO 備災センターの張国遠さんや大阪大学渥美教授らと共に 6 月に成都市で「中日安全技術研修」を開催し、約 25 名の研修生が日本と中国の災害復興や学校防災などを学んだ。また、阪神・淡路大震災 25 周年という事で NHK「しあわせ運べるように－神戸が生んだ奇跡の歌－」の撮影で、第 5 回日中 NGO ボラティア研修交流事業に参加した 3 名（成安有希理事、原田梨央さん、柳瀬彩花さん）と張国遠さん（NGO 備災センター）が、四川を再訪し、光明村の子どもたちが通う香泉小学校で防災教育の交流を行うことができた。 また、9 月には台湾集集地震（1999 年）の 20 周年で、台湾、四川、KOBE の三者交流を実施することができた。台北の国立政治大学で開催された国際シンポジウムに張国遠さん、渥美教授、CODE 吉椿が参加し、NGO と政治について議論した。その後、台中の埔里県の塱南大学で開催された国際シンポジウムにも張さんは登壇し、四川での取り組みを紹介した。 2020 年 1 月には「世界災害語り継ぎフォーラム」に CODE のカウンターパートのエコ・プラウォトさん（インドネシア）と張国遠さん（中国四川）をお招きし、CODE 寺子屋特別編を開催し、共に学び合う場を設けた。 毎年 3 月頃に実施している日中 NGO ボランティア研修交流事業は、湖北省武漢市から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で実施を延期することとした。

＊中日安全技術研修の開催

日　時:2019 年 6 月 18 日～23 日

場　所:四川省成都市

参加者:NGO 関係者 22 名

主　催:四川省学校安全教育・管理研究センター(新安世紀教育安全科技研究院)

共　催:大阪大学、CODE 海外災害援助市民センター、四川省心理学会、成都高新減災研究所、成都市上厚公益服務センターなど

＊四川・台湾・神戸交流事業(台湾集集地震 20 周年記念企画)

日　時:2019 年 9 月 17 日～23 日

場　所:台湾台北市、台中市南投県桃米

内　容:①国立政治大学での 20 周年記念シンポジウムの参加

②被災地桃米コミュニティ(南投県)の復興の視察

③暨南大学での 20 周年記念シンポジウムに参加

①「複合災害の協力におけるガバナンス」国際シンポジウムへの参加

日　時:2019 年 9 月 18 日(水)

場　所:国立政治大学社会科学学院

参加者:台湾、中国四川、日本、ベトナムの NGO、災害研究者、学生など約 40 名

報告者:江　明修(台湾・国立政治大学社会科学学院院長)

李　宗勲(台湾・中央警察大学行政管理学系教授)

陳　世栄(台湾・中国文化大学行政管理系副教授)

張　国遠(中国四川・学校安全教育管理研究センター主任)

吉椿雅道(日本・CODE 海外災害援助市民センター事務局長)

Thai Thanh Ha(ベトナム・国家行政学院順化市院区副教授)

渥美公秀(日本・大阪大学人間科学研究科教授)

陳　秋政(台湾・東海大学行政管理政策学系教授)

②被災地桃米コミュニティ(南投県)の復興の視

日　時:2019 年 9 月 19 日(木)

場　所:南投県桃米

参加者:台湾、中国四川、日本の災害研究者、NGO/NPO、学生など約 30 名

張　国遠(中国四川・学校安全教育管理研究センター主任)

高　思発(NGO 中国心ボランティアチーム代表)

吉椿雅道(日本・CODE 海外災害援助市民センター事務局長)

行　程:九份二山国家地震記念地(震源、土石流観測点、堰止めダム、慰霊碑など)、観音滝(蝶の生息地)、緑生農場

主　催:新故郷文教基金会(廖　嘉展)

③暨南大学での 20 周年記念シンポジウムに参加

	日　時:2019 年 9 月 20 日(木) 場　所:国立堅南国際大学 参加者:台湾、日本、中国の災害研究者、NGO、学生など約 100 名 登壇者:(日本)澤田雅浩、中林一樹、小林郁雄など (中国)張　国遠、高思発 (台湾)陳　亮全、顔新珠など 主　催:新故郷文教基金会 ＊CODE 寺子屋特別編第 1 回「中国の NGO 現状」 日　時:2020 年 1 月 23 日 場　所:CODE 事務所 講　師:張　国遠さん(新安世紀教育安全科技研究院院長) 参加者:15 名 ＊日中 NGO・ボランティア研修交流事業 例年 3 月に開催していたが、新型コロナウイルス感染のため、延期とした。 ＊2019 年度の主な動き: 6/18～23　中日防災安全研修(四川省成都市)で講義(吉椿)　＊6-(2)と重複 7/18　第 53 回食と国際協力「四川を訪ねて見えたこと～若者たちの視点から」 (成安理事、原田梨央さん) 8/30　NHK 四川訪問打合せ(吉椿) 10/3　NHK 四川訪問打合せ(成安理事、原田さん、柳瀬さん、吉椿) 10/16～20　NHK 特番撮影で四川訪問(成安理事、原田さん、柳瀬さん、吉椿) (＊張国遠さんによるコーディネート) 12/25 四川研修打合せ(成安理事、吉椿) 1/16　大阪大学 OS 協定シンポジウムに参加(吉椿) 1/17　「日中比較からみえてくる災害ボランティアの意義と課題」で講演(吉椿) ＊6-(2)と重複 1/18　NHK「しあわせ運べるように～神戸が生んだ奇跡の歌～」の放送 1/23　CODE 寺子屋特別編「中国の NGO の現状」(張国遠さん) 1/24～26　2020 世界語り継ぎフォーラムで登壇 (張国遠さん、エコ・プラウォトさん、吉椿)　＊4-(5)と重複

事業名	1-(3)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定	岩手県大槌、釜石などの被災者

人数	
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後、いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011 年 4 月 1 日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、2012 年 3 月末には、金沢大学と連携し、中国四川省から被災者 3 名、カウンターパート 1 名を招聘し、東日本の被災地の訪問と交流を行い、帰国前日には神戸で CODE 関係者などと交流会を行った。 2013 年 2 月には 10 周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。 2013 年、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至らなかった。 2019 年度も東日本の被災地の厳しい状況を被災地NGO協働センターと共有し、インドネシアの津波被災地などに東日本の現状を伝え、海外の被災地と東北をつなぐ役割を担ってきた。

事業名	1-(4) インドネシア救援プロジェクト （ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波）
実施日時	2018 年 7 月 29 日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峡（ジャワ島西部）
受益対象者の範囲及び予定人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約 670 名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約 100 名 スンダ海峡（ジャワ島バンテン州）の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	2018 年度にインドネシアのロンボク島、スラウェシ島、スンダ海峡（ジャワ島）で立て続けに起きた地震や津波に対して、CODE は、カウンターパートであるエコ・プロワットさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）を通じて小規模ではあるが、コミュニティセンター建設や木造建築のデザイン提供などの支援を行ってきた。だが、平成 30 年 7 月豪雨災害（西日本豪雨）と時期が重なった事もあり、寄付はそれほど集まっていない。2018 年度末で、上記 3 つの救援で約 190 万円（内、コープこうべハート基金がロンボク、スラウェシに各 50 万円、計 100 万円を拠出）という状況であった。各プロジェクトは以下の通り。 **＊「ロンボク島地震」** 発生日：2018 年 7 月 29 日、8 月 5 日、8 月 19 日 震源地：西ヌサトゥンガラ州都マタラムの北東 規　模：M6.4（7/29）、M6.9（8/5）、M6.9（8/19） 被　害：死者 555 名　損壊家屋 7 万 4000 棟　（インドネシア国家防災庁発表） ●CODE の動きと救援プロジェクト 2006 年以来連携しているエコ・プロワットさんや北茂紀さん（北建築構造事務所）などの建築の専門家にご協力いただき、現地調査を行った。その結果、北部のジェングラン村

	リアス地区で住民組織「パトゥ・アジェ」と連携し、エコさんを通じて木造家屋のデザインを提供することとなった。2019 年 1 月に来日したエコさんと上野が協議し、現地の木造住宅のワークショップについて議論した。 【第 1 次派遣】 日　時:2018 年 10 月　29 日～11 月 5 日 派遣者:上野智彦、増島智子、北茂紀さん、エコ・プロワットさん(ジョグジャカルタ)、 リンダ・オクタビアさん(ジョグジャカルタ) **＊「スラウェシ島地震・津波」** 発生日:2018 年 9 月 28 日 被災地:中スラウェシ州都パルの北約 80km 規　模:M7.5 被　害:死者 2090 名　行方不明 680 名 損壊家屋 6 万 7310 棟　(インドネシア国家防災庁発表) ●CODE の動きと救援プロジェクト 先述のエコ・プロワットさんにスラウェシ島の建築家の Rachmat さんを紹介していただいた。彼らは、インドネシア建築家協会などと連携して資金を集め、伝統木造建築を活かした仮設住宅の建設を被災地の 6 か所で行っていた。CODE は、2 度の現地派遣で Rachmat さんらと協議を経て、Sigi 県の Langaleso 村という被災地で、子どもたちが集うコミュニティスペースを伝統木造建築「Tambi または Bantaya」で建設するプロジェクトを実施することとなった。2019 年度には、Langeleso 村でコミュニティスペースを 【第 1 次派遣】 日　時:2018 年 11 月 7 日～12 日 派遣者:吉椿雅道 【第 2 次派遣】 日　時:2109 年 1 月 22 日～26 日 派遣者:吉椿雅道 **＊「スンダ海峡火山・津波」** 発生日:2018 年 12 月 22 日 被災地:ジャワ島西部バンテン州、スマトラ島南部ランプン州 規　模:アナク・クラカタウ火山島の噴火による島の 3 分の 1 の大量の土砂が山体崩壊によって海面に流れおちたことで、津波が発生した。 被　害:死者 426 名　行方不明者 29 名　負傷者 7202 名 (インドネシア国家防災庁発表) ●CODE の動きと救援プロジェクト スラウェシ島同様にエコ・プロワットさんに紹介いただいたインドネシア建築家協会の Maschyo さんらと共に 2 月に被災地であるジャワ島西部バンテン州を調査した。 日本の同様に災害に見舞われる可能性もあることから学び合いの提案をした。

	2019 年度は中川監事を通じて火山の専門家とインドネシアの専門家との学び合いの場を提供することで現地と調整してきた。 【第 1 次派遣】 日　時:2019 年 1 月 26 日～30 日 派遣者:吉椿雅道 ＊CODE 寺子屋特別編第 2 回「社会や文化につながる建築」 日　時:2020 年 1 月 28 日 場　所:CODE 事務所 講　師:エコ・プラウォトさん(デュタ・ワチャナキリスト教大学教授) 参加者:12 名 ＊2019 年度の主な動き: 1/24-26 2020 世界語り継ぎフォーラム(テルネット)に参加(エコ・プラウォトさん、吉椿) ＊6-(2)と重複 1/28　CODE 寺子屋特別編第 2 回「社会や文化につながる建築」(エコ・プラウォトさん) ロンボク島地震支援の打ち合わせ(エコ・プラウォトさん、上野)

事業名	1-(5)中国新型肺炎(新型コロナウイルス感染症)救援プロジェクト　＊新規
実施日時	2020 年 2 月 4 日～継続中
実施場所	中国武漢市、その他の国と地域
受益対象者の範囲及び予定人数	武漢市民や各国のカウンターパートが支援対象者
実施内容	●これまでの経緯と動き 四川大地震以降、連携している四川の張国遠さん(NGO 備災センター、新安世紀教育安全科技研究院)たちが、湖北省武漢市で発生したといわれる新型コロナウイルス感染症の感染拡大への支援を 2 月に開始し、CODE や渥美教授(大阪大学)に協力要請があったことから CODE も救援を立ち上げた。武漢市が封鎖されていることから、張さんたちは SNS を活用したオンラインボランティアの救援ネットワークを設立し、現地の病院への物資提供や医療スタッフの派遣、高齢者やホームレス、障がい者などへ物資提供、買い物サービス、病院搬送、心のケアなどの支援を展開してきた。3 月からは、張さんたち NGO と大阪大学、CODE が連携して、国際アライアンス(IACCR)を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど 14 の国と地域で民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場をこれまで 7 回開催してきた。武漢のオンラインボランティアや国際アライアンスを日本に積極的に発信する中で東京在住の後藤源太さんが、自宅のマンションでマスクゆずり合い BOX を設置し、身近な支え合いを実現した。 ＊新型コロナウイルス感染症支援に関する動き

	2/4　救援プロジェクトを立ち上げ 3/3　大阪大学、NVNAD と協議（吉椿） 3/9　大阪大学と共催で新型コロナの学習会「中国・台湾から学ぶ」（第 3 回）で報告（吉椿、上野、立部） 3/18　大阪大学と共催で新型コロナの学習会「社会心理とデマ」（第 4 回）に参加（吉椿、立部） 3/27　大阪大学と共催で新型コロナの学習会（第 5 回）で報告（吉椿） 3/25　国際アライアンス「IACCR」第 1 回で報告（吉椿） 3/26　張さんへ「オンラインボランティア」の取材（毎日新聞）（吉椿） 4/2　ひょうごコミュニティ財団に神戸の NPO の状況をヒアリング（吉椿） 4/3　国際アライアンス「IACCR」第 2 回に参加（吉椿、上野、立部） 4/10　国際アライアンス「IACCR」第 3 回で報告（吉椿、立部） 4/14　関西 NGO 協議会新型コロナ情報共有会打ち合わせ（吉椿） 4/16　渥美先生と国際アライアンスのうち合わせ（吉椿） 関西 NGO 協議会加盟団体の新型コロナの情報共有会で報告（吉椿、立部） 4/17　国際アライアンス「IACCR」第 4 回に参加（吉椿、上野、立部） 4/18　関西 NGO 協議会共同ファンドミーティング（吉椿） 4/20　関西 NGO 協議会共同ファンドミーティング（吉椿） 4/24　NHK、渥美先生打ち合わせ（吉椿） 未来基金企画ミーティングを開催 （宮本副代表、成安理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） 4/26　ひょうご支え合い基金ミーティングに参加（吉椿） 4/27　IACCR スタッフオンライン会議（吉椿） CODE コロナ支援に関するワーキンググループの開催 4/30　国際アライアンス「IACCR」第 5 回に参加（吉椿） 神戸新聞取材（吉椿） 大阪大学院生「コロナと差別」企画のミーティング（吉椿） 5/1　毎日新聞取材（吉椿） 5/2　NHK 取材（吉椿） 5/12　未来基金企画ミーティング （宮本副代表、成安理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） 5/13　JICA 関西にコロナ支援のレクチャー（吉椿） 5/14　ガイドラインワーキング開催 5/15　国際アライアンス「IACCR」第 6 回に参加（吉椿、立部） 5/18　関西 NGO 協議会共同ファンドミーティング（吉椿） 5/22　NHK 打ち合わせ&撮影テスト（吉椿） 5/23　関西 NGO 協議会オンライン総でコロナ支援の講演（吉椿） IACCR スタッフミーティング（吉椿） 5/26　NHK 番組収録（吉椿）

	5/27　福井大学でコロナ支援の講演（吉椿） 5/28　ヒューライツ大阪の「新型コロナ」の会報原稿執筆（吉椿） 5/29　国際アライアンス「IACCR」第 7 回に参加（吉椿、上野、立部） レスキューストックヤードにコロナ支援の講義（吉椿） 5/30　ひょうご支え合い基金でコロナ支援の報告（吉椿） 5/31　NHK「明日へつなげよう」が放送（吉椿） 6/2　CODE 未来基金企画「世界の STAY HOME から」を開催 （室崎代表、宮本副代表、成安理事、吉椿、上野、立部） 6/5　関西 NGO 協議会ブログ「新型コロナ」原稿執筆（吉椿） 6/12　国際アライアンス「IACCR」に参加（吉椿、立部）

●終了プロジェクト

事業名	1-(6)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	地震発生後、四川省地震（2008 年）以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」や四川省で共に活動した NGO、ボランティアを通して被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2010 年に 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会（Snowland Service Group、SSG）」や中国の NGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。 並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん（アラフマイアニ・フェイサル）とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで 2011 年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。 2012 年 7 月の第 3 次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、2013 年 4 月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8 月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。 2014 年 8 月に吉椿が現地を再訪し、ヤク銀行プロジェクトやヤクの飼育などの状況を視察した。カトゥ村の遊牧民家族に提供された 37 頭のヤクは、現在、53 頭に増えた。 2015 年 8 月には、カウンターパートのイアニさんが現地を訪問し、母ヤクが 8 頭 を出産したが、5 頭が病気などで死亡したことで現在のヤクの総数は 56 頭であることを確認した。 2016 年 8 月に現地を訪問したイアニさんの報告では、地元の県政府が、CODE の提案し

	たヤク銀行プロジェクトに注目し、新たな約 200 頭と CODE の 56 頭を集約し、遊牧民へのヤクの再分配を行うことになった。CODE の提供した 56 頭のヤクを飼育している遊牧民ロブサンは、1/3 のヤク（19 頭）を得ている。これは、NGO による提案が現地政府によって引き継がれたといえる。 これは、ヤク銀行だけでなく、イアニさんと僧侶が行って来た植林、ゴミの分別、有機農業、水管理なども同様に集約して政府のサポートを受けている。これらの政府の意図やねらいについては、イアニさんによると、政府がチベット高原の危機的な環境問題（草原の後退など）に対してイメージアップをはかりたいのではないかということであった。イアニさんとヤク銀行委員会の協議で政府のサポートを受ける事やヤクの再分配について同意し、減現在、約 260 頭を 3 つの地域で実施しているとのことであった。2018 年度は、イアニさんが現地を訪問しなかったことから現地の詳細な状況が確認できなかった。 2019 年夏にカウンターパートのイアニさんが青海省を訪問し、現地の状況を聴いた。依然として現地の政府の提供したヤク 200 頭と CODE のヤク 56 頭を 3 つのグループで飼育し、着実に成長しており、現地政府もこのプロジェクトが高原の生態圏のバランスをとるいい方法だと非常に評価しているという。また、そのヤクのミルクから作られるバター、ヨーグルトや肉はヘルシーで好評だという。またラブの周辺地域もエコツーリズムとしての観光地になりつつあるという。ただ、チベットエリアということから政府の監視の目は厳しく、住民の間にも疑念や緊張が生まれているという。 現在、ラブには、影響力のあるインドの若い活仏がいるので、イアニさんの行って来た環境やヤク銀行のプロジェクトに理解を示してくれている。彼は英語もできるので直接コンタクトをとる事も可能であるとのことである。 カウンターパートのイアニさんは、2 年前からインドネシアのバリ島の環境問題（水と有機農業）に取り組んでおり、バリ島は厳しい環境問題にさらされており、環境活動家も命を落としている。イアニさんは、自国の深刻な環境問題に取り組まなくてはならない状況にあると言っている。よって、イアニさんは、2019 年の現地訪問が最後となることから、CODE もこのプロジェクトを終了とするが、今後も上記の若い活仏を通じて現地の状況を不定期に報告する。なお、イアニさんは、現在、新型コロナウイルス支援の国際アライアンスにも参加している。

●終了プロジェクト

事業名	1-(7) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者　約 3500 人
実施内容	●地震発生からの経緯 ネパールでは、81 年ぶりに大規模な地震（M7.8）に襲われた。ネパール全 75 郡のうち 39 郡が被災し、うち 29 郡が大きな被害を受けた。被害の概要は以下のとおり。

	死者 8650 名、被害家屋約 77 万棟、被災者約 810 万人（国民の約 3 分の1）。 CODE は元スタッフ、斉藤容子さんや故黒田裕子理事の団体の元ボランティアの井上想さん、神戸在住のネパール人、ラクパ・シェルパさんなどのつながりを通じてネパールにスタッフ 2 名（吉椿、上野）を派遣し、調査を行った。この派遣によってネパールの伝統建築家、篤農家、日本人医師、山岳民族シェルパ族のコミュニティなどとの関係を築いた。 その後、雨期対策としてラクパさんの故郷のグデル村でテントシートを配る「CODE3000 プロジェクト」を行った。その後、この村は、アクセスが悪く支援が届いていない事から CODE は石、木、竹、泥などの地元の資材を使った耐震住宅再建を行い、地元の大工、石工たちがモデルハウス建設を通して耐震技術を学ぶ「耐震住宅再建プロジェクト」を決定した。 ＊耐震住宅再建プロジェクト 2015 年末より耐震住宅再建プロジェクトが本格始動した。2015 年末から京都建築専門学校の学生、山本耕資さんをグデル村に派遣し、その後合流したスタッフの上野と共に日本とネパールの大工の技術交流を行った。また、2016 年 1 月より Khwopa 工科大学のモーハン・パント先生のご協力により建築の専門家 2 名を派遣し、現地の大工、石工たちに耐震の指導を行った。約 13 名の大工・石工がこのプロジェクトにかかわり、中でもニマ・シェルパさんはこれを機に村に戻り、大工として生きていく事を決意した。モデルハウスは、2016 年夏に完成し、約半年間をかけた大工・石工たちの学びの場となった。ここで耐震技術を学んだ大工・石工たちは、その後チームに分かれて26棟の住宅を再建した。2017年3月には 26 棟の耐震住宅が完成した。グデル村での復興庁の調査ではネパールの建築基準の合致しており好評をいただいた。地元ソルクンブ郡のラジオでも取り上げられた。 2017 年 2 月には西宮の「夢広の会」の支援する同郡パタンジェ村のコミュニティセンター建設プロジェクトでも、被災地 NGO 協働センターとお付き合いのあった北茂紀さん（北茂紀建築構造事務所）に耐震構造の指導をいただき、グデル村からニマさんなど大工 2 名が 2 回現地で指導に行った。第 6 次派遣で村井理事と上野がパタンジェ村を訪れ、その状況を確認した。 2017 年度は、グデル村のメンバーを連れて、被災地であるシンドパルチョーク郡チョウタラの住宅再建の状況を視察した。一方、グデル村での住宅再建後の現地の状況やニーズが、生計の向上に重きを置いており、CODE にプロポーザル（申請書）が来たことから、シャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」と収入向上のプロジェクトについて協議をした。現地ではすでに収入向上に向けてバザールの開設や果物の試作などの動きが始まっている。 2018 年度からは、カウンターパートであるラクパ・シェルパさんが、ネパールの人材を日本の福祉の現場に送り出す事業で超多忙で協議する時間も取れないという状況やグデル村との通信環境が不十分なことからプロジェクトは中断状態にあった。ラクパさん自身が郷里のグデル村に年に一度しか帰省しないという事情やカウンターパートの担当者不在という現状を踏まえ、一端事業を終了する方が賢明と考える。しかし、今後もカウンターパートとの連絡は継続し、現地からの要請などがあれば再度プロジェクトの協議を行う。

	＊2019 年度の主な動き: 6/14 第 52 回食と国際協力「ネパール」を開催（夢広の会、廣本さんご夫妻） ＊2-(3) と重複 8/22 ラクパさんと打合せ（村井理事、吉椿、上野、立部） 12/13 第 57 回食と国際協力「ネパール」（山本健一さん） ＊2-(3) と重複 2/20 第 58 回食と国際協力「ネパール」（モーハン・パントさん） ＊2-(3) と重複

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	2013 年度より吉椿雅道を事務局長として若者の CODE へのかかわり、および事務局体制の充実化を図ってきた。スタッフの上野智彦（29 歳）は、これまでにフィリピン、ネパール、ハイチ、四川の被災地の現場経験を経て、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。対外的にも関西 NGO 協議会等の勉強会や研修などにも積極的に参加してきた。現在は、主に未来基金の運営や CODE レター作成などを中心に活動。 2018 年度は、神港橘高校 3 年生の山内優さん（18 歳）が、タウンミーティングをきっかけに 2018 年 5 月から 2019 年 1 月まで毎週木曜日に事務所で通年型インターンとして事務局業務を担っていただいた。これをきっかけに彼女は関西大学に進学することとなった。 また、未来基金に関わる大学生などのボランティアに協力してもらい、食と国際協力やイベントの運営を行って来た。 2019 年度は、事務局は、立部知保里さん（兵庫県立大学大学院博士課程）が未来基金インターン、アルバイトスタッフとして 25 周年のイベント企画、運営や CODE レターの編集、ネパール事業などを担って頂いた。また、原田梨央さん（武庫川女子大学 4 年）や柳瀬彩花さん（追手門学院大学 2 年）がボランティアとしてイベント運営などの事務局業務をサポートしていただいた。 また、2019 年度は、代表理事の交替や新任理事の参画もあったことから、ガイドライン、支援プログラム、広報、人材育成、資金調達のワーキンググループを再編成した。 未来基金の 25 年企画（5 回シリーズ）の運営を軸にワーキンググループでの議論をおこなった。 なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策、休校による育児対応などの理由により、4 月中旬より在宅ワークに切り替え、スタッフ 1 名が交替で事務所へ勤務する体制をとった。 ＊主な動き: 5/9 事務局会議（村井理事、吉椿、上野、立部）

	5/17　榛木理事と名簿管理についてミーティング（榛木理事、上野） 7/22　事務局会議（榛木理事、村井理事、吉椿、上野） 7/24　臨時理事会を開催 8/5　午後：未来基金ワーキンググループミーティング （西海理事、宮本理事、村井理事、吉椿、上野、立部） 夜　：未来基金ワーキンググループミーティング （室崎代表理事、成安理事、岸本理事、村井理事、吉椿、上野、立部） 11/7　ガイドラインワーキンググループ開催 （室崎代表、村井理事、松田理事、吉椿、上野、立部） 11/19　第 4 回貝原俊民美しい兵庫づくり賞受賞式に出席 （芹田前代表、宮本副代表、岸本理事、細川、吉椿、上野、立部） 3/30　広報ワーキンググループ（CODE Letter、リーフレットデザイン会議） （岸本理事、成安理事、上野、立部）

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	2018 年度は、榛木理事、村井理事の両理事を講師に「NGO ことはじめ」を 2 回開催し、スタッフやボランティアなどの若い人ただけでなく、近畿ろうきんなどの方々にも CODE の理念や活動を学んでいただく場を提供した。 NGO ことはじめ 2019「NGO とは何か？」 第 1 回基礎編（2019 年 6 月 24 日）　講師：榛木恵子理事　参加者：10 名 第 2 回応用編（2019 年 7 月 8 日）　講師：村井雅清理事　参加者：11 名

事業名	2-(3) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	毎月第 3 木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらうと同時に、その中か

	ら CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。2017 年度は全 9 回を開催し、のべ 111 名にご参加いただいた。これまでの 4 年間で計 40 回を開催し、のべ 506 名にご参加いただいた。 ＊これまで開催された内容は以下の通り。 第 1 回 れーずんの会 （CODE） （2014 年 3 月 28 日） 参加人数:11 名 2014 年度 第 2 回 れーずんの会 （CODE 理事 村井雅清）（2014 年 4 月 25 日） 参加人数:15 名 第 3 回 フィリピンからまなび （PEPUP 中山迅一さん＋CODE 事務局長 吉椿雅道） （2014 年 5 月 15 日） 参加人数:13 名 第 4 回 インドネシアとつながる （JICA 兵庫デスク 中村彩乃さん＋CODE 理事 村井雅清） （2014 年 6 月 19 日） 参加人数:15 名 第 5 回 食から見る日本とアメリカ （ワールドユースジャパン学生＋CODE スタッフ上野智彦、多田茉莉絵） （2014 年 7 月 15 日） 参加人数:21 名 第 6 回 青海省チベット高原から （CODE 事務局長 吉椿雅道） （2014 年 8 月 21 日） 参加人数:11 名 第 7 回 ハイチからのたより（シスター須藤＋CODE 事務局長 吉椿雅道） （2014 年 9 月 24 日） 参加人数:11 名 第 8 回 れーずんの会（CODE 理事 村井雅清、多田茉莉絵） （2014 年 10 月 16 日） 参加人数:11 名 第 9 回 イランってどんな国？ （在神戸イラン人夫妻 奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリさん＋CODE） （2014 年 11 月 20 日） 参加人数:11 名 第 10 回 台湾とのきずな（京都大学防災研究所 李勇昕さん、宮本匠さん） （2014 年 12 月 18 日） 参加人数:9 名 第 11 回 バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （人と防災未来センター 斉藤容子さん） （2015 年 2 月 19 日） 参加人数:13 名 第 12 回 中国四川の風土と食（CODE 事務局長 吉椿雅道） （2015 年 3 月 19 日） 参加人数:7 名 2015 年度 第 13 回 アフガニスタンからの贈り物～れーずんの会 （CODE 理事 村井雅清） （2015 年 4 月 16 日） 参加人数:10 名 第 14 回 カンボジアの子どもたち～アンコールの風～ （SVA カンボジア事務所 ソティア・ロアットさん） （2015 年 6 月 2 日） 参加人数:15 名

	第 15 回　スリランカという国～インド洋の島国の生活～ （人と防災未来センター　斉藤容子さん） （2015 年 8 月 20 日）　参加人数:　11 名 第 16 回　ヒマラヤの民シェルパ～ネパール標高 3000m の暮らし （Royal Orchid Treks　ラクパ・シェルパさん） （2015 年 9 月 17 日）　参加人数:18 名 第 17 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2015 年 10 月 15 日）　参加人数:11 名 第 18 回　アフガニスタンからの贈り物～れーずんの会（CODE 理事　村井雅清） （2015 年 11 月 19 日）　参加人数:8 名 第 19 回　フィリピンの食と暮らし～セブ島の「食」から見えること～ （神戸大学 PEPUP　坂元千織さん、CODE スタッフ　上野智彦） （2015 年 12 月 17 日）　参加人数:9 名 第 20 回　エルサルバドルってどこ?どんな国？ （人と防災未来センター　岸本くるみさん） （2016 年 2 月 18 日）　参加人数:12 名 第 21 回　台湾の寄付文化（京都大学防災研究所　李勇昕さん） （2016 年 3 月 17 日）　参加人数:13 名 2016 年度 第 22 回　9.11 から 14 年（CODE 理事　村井雅清） （2016 月 4 月 14 日）　参加人数:17 名 第 23 回　ネパールのハニーハンター　（ハニールネッサンス　米川安寿さん） （2016 年 5 月 19 日）　参加人数:15 名 第 24 回　バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （暮らし研究所ままどころ　斉藤容子さん） （2016 年 6 月 16 日）　参加人数:10 名 第 25 回　多様なる雲南～日本のルーツを求めて　（CODE 事務局長　吉椿雅道） （2016 年 7 月 21 日）　参加人数:10 名 第 26 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2016 年 9 月 15 日）　参加人数:14 名 第 27 回　中国・四川での暮らし～13 年間の生活から見えてきたもの～ （植田麻紀さん、Sim さん夫妻）（2016 年 10 月 21 日）　参加人数:17 名 第 28 回　ネパールの大工、語る。～ネパールの若者から見たネパール～ （ネパール人大工　ニマ・シェルパさん） （2016 年 11 月 10 日）　参加人数:25 名 第 29 回　若者が見たフィリピン　～未来基金のフィールドワークの活動を語る～ （神戸大学　宮津隆太さん）　（2016 年 12 月 15 日）　参加人数:10 名 第 30 回　台湾の寄付文化　（京都大学防災研究所　李勇昕さん）

	（2017 年 2 月 16 日）　参加人数:9 名 第 31 回　ネパールの村を訪れて（兵庫県立大学　立浪雅美さん） （2017 年 3 月 16 日）　参加人数:13 名 2017 年度 第 32 回 9.11 から 15 年～れーずんを食べながらアフガニスタンの「いま」を考える～ （CODE 理事　村井雅清）　（2017 年 4 月 20 日）　参加人数:9 名 第 33 回 ネパールのハニーハンター　～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～ （ハニールネッサンス代表　米川安寿さん） （2017 年 5 月 25 日）　参加人数:8 名 第 34 回　バングラデシュでチャイと出会って～NGO35 年に関わって～ （CODE 理事　榛木恵子）　（2017 年 7 月 13 日）　参加人数:9 名 第 35 回 イランってどんな国　～実はよく知らない？イランの魅力～ （くらし研究所ままどころ代表　斉藤容子さん） （2017 年 9 月 14 日）　参加人数:10 名 第 36 回　フィリピンに出会って　～地元の人の暮らしに触れる～ （兵庫県立大学大学院　立部知保里さん） （2017 年 10 月 19 日）　参加人数:10 名 第 37 回　ネパールの若者と語り合う～シェルパの若者と日本の若者～ （ネパール人大工　ニマ・シェルパさん） （2017 年 11 月 16 日）　参加人数:21 名 第 38 回　僕なりの援助のハナシ～フィリピンを再び訪れて～ （神戸大学 2 年生　羽田和真さん） （2017 年 12 月 21 日）　参加人数:13 名 第 39 回　多様なる雲南～日本のルーツを求めて～（CODE 事務局　吉椿雅道） （2018 年 2 月 15 日）　参加人数:16 名 第 40 回　一人前ってどれくらい? ～エルサルバドルと日本のごはんから教わったこと （人と防災未来センター震災資料専門員　岸本くるみさん） （2018 年 3 月 8 日）　参加人数:15 名 2018 年度 第 41 回　9・11 から 16 年～れーずんを食べながらアフガニスタンの今を考える～ （CODE 理事　村井雅清）　（2018 年 4 月 19 日）　参加人数:12 名 第 42 回 ネパールのハニーハンター　～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～ （草木のはちみつ代表　米川安寿さん） （2018 年 5 月 17 日）　参加人数:13 名 第 43 回　20 年を目前に～台湾の今～ （兵庫県立大学准教授　澤田雅浩さん、被災地 NGO 協働センター 代表　頼政良太さん）（2018 年 6 月 21 日）　参加人数:16 名 第 44 回　フィリピンの漁村から～文化人類学の視点から～ （甲南女子大学講師　瀬木詩央さん） （2018 年 7 月 19 日）　参加人数:12 名

	第 45 回　モンゴルの風　～草原の暮らしと今～ （Yagitee　陳阿拉騰桑さん、佳子さん夫妻） （2018 年 10 月 18 日）　参加人数:23 名 第 46 回　世界で最も島の多い国インドネシアから災害の多い祖国への想い～ （関西社会福祉専門学校　チェリア・プラティウィさん） （2018 年 11 月 15 日）　参加人数:17 名 第 47 回　セネガルの人々と共に歩んだ 2 年間の記録～今、伝えたいこと～ （青年海外協力隊 OB　柚原里香さん） （2018 年 12 月 20 日）　参加人数:25 名 第 48 回　チベット高原から～標高 4000m の暮らしから見えるもの～ （CODE 事務局長　吉椿雅道）（2019 年 2 月 22 日）　参加人数:11 名 第 49 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2019 年 3 月 14 日）　参加人数:17 名 2019 年度 第 50 回　ハイチを訪ねて～被災地は今、ハイチ地震から 9 年 （CODE スタッフ　上野智彦）（2019 年 4 月 18 日）　参加者:13 名 第 51 回　フィリピン「人」の魅力～都会で暮らして、田舎で暮らして～ （CODE インターン　立部知保里）（2019 年 5 月 17 日）参加者:17 名 第 52 回　パタンジェ村の人々と共に～ネパールの山村から～ （夢広の会、廣本勝治さん、敏美さんご夫妻） （2019 年 6 月 14 日）　参加者:20 名 第 53 回　四川を訪ねて見えたこと～若者たちの視点から～ （関西学院大学職員、CODE 理事　成安有希）（2019 年 7 月 18 日） （武庫川女子大学薬学部 3 年生　原田梨央さん）　参加者:25 名 第 54 回　エルサルバドルのラテンな暮らし～わたしがごはんから教わったこと～ （神戸学院大学実習助手、CODE 理事　岸本くるみ） （2019 年 9 月 26 日）　参加者:24 名 第 55 回　2004 年スマトラ島沖地震と津波後のスリランカ住宅再建 （神戸大学都市安全研究センター　カウマディ・アベウエラさん） （2019 年 10 月 25 日）　参加者:18 名 第 56 回　メコン河流域の文化と暮らし～中国雲南で暮らしてみて～ （CODE 事務局長　吉椿雅道）　（2019 年 11 月 15 日）　参加者:12 名 第 57 回　ネパールから見た日本　（CODE 賛助会員　山本健一さん） （2019 年 12 月 13 日）　参加者:11 名 第 58 回　バクタプルの再開発から学ぶ（クワパ工科大学教授　モハン・パントさん） （2020 年 2 月 20 日）　参加者:14 名 第 59 回　イランという国　～メディアからは伝わらない話～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2020 年 3 月 19 日）　参加人数:12 名

事業名	2-(4) CODE 未来基金
実施日時	2014 年 12 月 10 日～
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事をめざす若者、若干名。
実施内容	これまでの CODE の事業で 3 年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額（約 1000 万円）の資金を活用して、2015 年度 4 月より「CODE 未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第 1 回神戸宣言の採択の日である 12 月 10 日に理事会に承認された。 また、2005 年度から始まった CODE スタッフへの奨学金制度は、理事会の承認を経て未来基金の項目に統合した。今後、該当者がいれば、未来基金としてその都度、対応していく。 ●「CODE 未来基金」の概要 ・主旨：災害救援を主たる目的とする NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容：以下の 3 部門 1. インターンシップ・・・将来、CODE など災害 NGO で働きたい若者が CODE で有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODE の支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。 3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。 ・基金の財源：CODE の過去のプロジェクト費と寄付金を活用する。 CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。 ・寄付について：＊一般寄付 個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円 ＊未来基金サポーター 年会費：1,000 円 ・運営・選考：上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。 選考委員：芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の 4 名と西海恵都子（神戸新聞編集局報道部長）、宮本匠（兵庫県立大学）の 2 名の外部委員から構成される。なお、山添理事は、2018 年度にコープこうべを退職されたことからこの委員を退任した。

●これまでの動きと現状

2014 年 5 月に菊池健さん（社会を動かす研究所、元パナソニック役員）にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名（上野、頼政）がグンゼ（株）の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その後も選考委員でもある山添、榛木、松田の 3 名の CODE 理事や企業、学生などの意見を踏まえ、未来基金のしくみ、運営、募集などの検討を重ねてきた。

2016 年度は、榛木理事や村井理事のご協力により事務局ミーティングを 3 回程度行い、寄付やサポーター、参加学生の活用などの議論を重ねてきた。

未来基金のフィールド研修部門は、参加学生も多く、盛り上がりをみせたが、寄付やサポーター会員の獲得に対する動きは鈍かった。参加学生と共に寄付者、サポーターの獲得を戦略的に考えなくてはならない。

●これまでの実績

下記のように CODE は、これまでに未来基金を通じて、のべ 22 名の若者に被災地のフィールドやインターンで学ぶ場を積極的に提供してきた。

●これまでの主な動き

＊プレ企画

・第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成

CODE の支援する中国四川省を訪問し、復興の現状視察や被災者との交流、現地 NGO との学び合いなどを通して、次世代の NGO を担う若者を発掘する。未来基金から少額の補助を活用した。

日　時：2015 年 3 月 23 日～29 日（7 日間）

場　所：四川大地震（2008 年）の被災地

参加者：小坂めぐみ（神戸市外国語大学 3 年）、北川和真（神戸大学 4 年）、大西佑季（神戸大学 1 年）、成安有希（関西学院大学 3 年）、中山迅一（佛教大大学）上野智彦（立命館大学、CODE スタッフ）の 6 名

・第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成

中国から 3 名の NGO スタッフを招へいし、神戸や中越の被災地を視察・訪問し、日本の専門家による講義を受けた。未来基金から少額の補助を活用した。

日　時：2015 年 6 月 12 日～21 日（10 日間）

場　所：神戸、中越、金沢など

参加者：張国遠（NGO 備災センター）、高圭滋（四川尚明公益発展研究センター）、羅丹（成都根与芽環境文化交流センター）
成安有希（関西学院大学 4 年）、宮津隆太（神戸大学 2 年）、吉崎唯（神戸大学 2 年）の 3 名の若者が中越、金沢に同行

講　師：山添令子（コープこうべ）、室﨑益輝（CODE 副代表理事＊当時）、村井雅清（CODE 理事）、渥美公秀（大阪大学）、稲垣文彦（中越防災安全推進機構）、

	阿部巧（中越防災安全推進機構）、宮本匠（兵庫県立大学）、田中純一（北陸学院大学）、李妍焱（駒澤大学） ＊第 3 回、第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業（参加者各 6 名）への未来基金からの助成はなし。 ＊フィールドワーク事業 ・第 1 号事業：神戸大学生（アイセック神戸大学委員会）による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。 日　時：2016 年 8 月 10 日～18 日（9 日間） 場　所：フィリピン・セブ島、バンタヤン島 企画者：宮津隆太（神戸大学 2 回生） 参加者：神戸大学生 5 名 （宮津隆太、河村陽菜、佐久間崚平、西本楓、羽田和真） 同行者：上野智彦（CODE スタッフ） テーマ：「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」 内　容：被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。 ・第 2 号事業：兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデル村でフィールド研修が行われた。2016 年 9 月 12 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。 日　時：2017 年 2 月 22 日～3 月 5 日（12 日間） 場　所：ネパール・ソルクンブ郡グデル村 企画者：立浪雅美（兵庫県立大学 4 回生） 参加者：兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の 3 名 （立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希） 同行者：吉椿雅道（CODE 事務局長） テーマ：「Discovery！～未来への可能性を広げよう～」 内　容：辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。 ・2016 年度 CODE 未来基金フィールドワーク報告会 未来基金を活用してフィリピンやネパール、中国四川でフィールドワークを行った若者たちが、実体験や学びを語り、次世代の若者に刺激を与える場となった。 日　時：2017 年 3 月 26 日（日） 場　所：こうべまちづくり会館

報告者:フィリピン(宮津隆太、河村陽菜、羽田和真)
ネパール(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)
四川(北川和真、今中麻里愛、成安有希)
参加者:27 名

●2017 年度の動き

＊フィールドワーク事業　＊1－(2)と重掲

・第 3 号事業:神戸大学の学生の企画によって CODE の支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017 年 10 月 3 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日　時:2018 年 3 月 22 日～3 月 30 日(8 日間)
場　所:中国四川省の被災地(光明村など)
企画者:西本楓(神戸大学 2 回生)
参加者:神戸大学 4 名
(西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香)
同行者:吉椿雅道(CODE 事務局長)
テーマ:「食による村おこし」
内　容:医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。

＊インターンシップ事業

2016 年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん(愛媛大学 2 年生)が未来基金インターンシップ第 1 号として申請し、2017 年 8 月 18 日の選考委員会の協議を経て採択された。2017 年 10 月 3 日～2018 年 4 月 1 日までの半年間大学を休学し、CODE のインターンとして共に働いた。主に SNS を活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営などを担っていただいた。未来基金ニュースの「だいき日記」でも発信しているように、6 ヶ月のインターンの経験で高橋さんは、NGO の運営や CODE の理念を学んだだけではなく、NGO で働くことを現実的に考え、将来の進路にも大きな影響を及ぼした。

＊第 1 回サポーターミーティング

日　時:2017 年 7 月 15 日(土)
場　所:こうべまちづくり会館ホール
内　容:未来基金の特色を再認識し、未来基金で若者が実現したいことや企画を考える場となった。
参加者:19 名

*第 2 回サポーターミーティング

日　時:2018 年 2 月 24 日(日)
場　所:神戸市教育会館

	内　容：未来基金のサポーターとはどのようなものかを理解してもらい、参加者と未来基金のかかわり方をグループワークによって見つける事ができ、コアなメンバーの顔ぶれも見えてきた。 参加者：17 名 ＊CODE 未来基金合同報告会　＊6-(2)と重掲 日　時：2018 年 4 月 1 日（日） 場　所：こうべまちづくり会館 報告者：未来基金フィールド研修（四川）や未来基金インターン、日中 NGO・ボランティア研修交流事業に参加した学生 10 名 参加者：40 名（室﨑副代表、村上、村井理事も参加） ＊CODE 未来基金報告会 日　時：2019 年 3 月 30 日（土） 場　所：青少年会館多目的ホール 報告者：〇未来基金ネパールフィールド研修参加者、未来基金インターン生 高橋大希さん（愛媛大学 4 年） 〇未来基金フィリピンフィールド研修参加者 羽田和真さん（神戸大学 4 年） 〇日中 NGO・ボランティア研修交流事業参加者 森口花マティーナ（神戸龍谷高校 2 年）、山内優（神港橘高校 3 年）、柳瀬彩花（屋久島おおぞら高校 3 年）、西岡かりん（関西学院大学 2 年）、原田梨央（武庫川女子大学 2 年）、成安有希（関西学院大学職員）、曾　翕如（大阪大学大学院） 参加者：40 名（芹田代表、室﨑副代表、村上理事、村井理事も参加） ＊国内研修 11 月、被災地 NGO 協働センターとの連携で平成 30 年 7 月豪雨の被災地、広島県坂町にて実施した CODE 未来基金国内研修に 6 名の若者が参加した。仮設住宅での訪問活動や足湯、お茶会を通じて被災者の方々とのコミュニケーションをとり、発災から 4 カ月が経過した被災者が抱える課題について考える機会となった。 ※本研修は真如苑「Shinjo プロジェクト」の助成を受けて実施した。 ●サポーターの状況： 2015 年度：寄付者 10 名、サポーター3 名 2016 年度：寄付者 21 名、サポーター74 名） 2017 年度：寄付者 46 名、サポーター95 名 2018 年度：寄付者 50 名、サポーター48 名 2019 年度：寄付者 47 名、サポーター83 名（152 口） 寄付のべ 174 名、サポーターのべ 303 名

2015 円度末から 2016 年度初めにかけて NHK の番組に出演したことで大口の寄付があり増額したが、通常時の寄付は少なく、基金の年間運営の収支のバランスが取れていない。上記のように、現状としては寄付、寄付者、サポーターは決して多いとは言えない。今後も報告会や若者が語る場を作っていくことでサポーターや寄付者を増やしていく。

●2018 年度の事業

＊プログラム募集

2018 年度のプログラム募集では、前期フィールドワーク 1 件が採択されたが、申請者の都合により辞退の申し入れがあった。

＊国内研修

11 月、被災地 NGO 協働センターとの連携で平成 30 年 7 月豪雨の被災地、広島県坂町にて実施した CODE 未来基金国内研修に 6 名の若者が参加した。仮設住宅での訪問活動や足湯、お茶会を通じて被災者の方々とのコミュニケーションをとり、発災から 4 カ月が経過した被災者が抱える課題について考える機会となった。

※本研修は真如苑「Shinjo プロジェクト」の助成を受けて実施した。

＊サポーターミーティング・報告会

2018 年 2 月に開催したサポーターミーティングでは参加したサポーターからいくつかの未来基金を盛り上げる提案がされた。2018 年度は若者が主体となりサポーターミーティングでの提案の実施をめざしたが、事務局のサポート不足から、4 月に開催した花見会以外は実現に至らなかった。

3 月末に 2018 年度 CODE 未来基金報告会を開催した。CODE 未来基金に関わる若者やサポーターの他、報告者の関係者、CODE の支援者、社会企業スタッフ、CODE 理事など 32 名が集まり、国内研修や過去の未来基金プログラム参加者の映像での報告、日中 NGO ボランティア研修交流事業（四川大地震救援プロジェクト）の報告を実施した。

・CODE 未来基金報告会を開催

日　時：2019 年 3 月 30 日（土）

場　所：青少年会館多目的ホール

報告者：〇未来基金ネパールフィールド研修参加者、未来基金インターン生

高橋大希さん（愛媛大学 4 年）

〇未来基金フィリピンフィールド研修参加者

羽田和真さん（神戸大学 4 年）

〇日中 NGO・ボランティア研修交流事業参加者

森口花マティーナ（神戸龍谷高校 2 年）、山内優（神港橘高校 3 年）、柳瀬彩花（屋久島おおぞら高校 3 年）、西岡かりん（関西学院大学 2 年）、原田梨央（武庫川女子大学 2 年）、成安有希（関西学院大学職員）、

曾　翕如（大阪大学大学院）

参加者：40 名（芹田代表、室﨑副代表、村上理事、村井理事も参加）

●2019 年度の報告

① ボランティアの日

2019 年度の計画では「ボランティアの日」として、若者が CODE の事務所に集まりボランティアを行う日を設定するとしていた。5 月、6 月と CODE のボランティアを行う日を設定し、各回 3、4 人の若者が参加したが、作った募金箱を若者自身が活用するというところまでは至らなかった。未来基金インターンとしていた立部さんとともに魅力ある活動を模索したが、ボランティアが集まるには至らなかった。

② サポーターミーティングと報告会

2019 年の CODE 未来基金報告会、サポーターミーティングに関しては後述の CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年特別企画の開催を優先し、2019 年度は開催しなかった。

③ 阪神・淡路大震災から 25 年を迎えるにあたって

2019 年 10 月から 2020 年 2 月にかけて 5 回に渡り、「CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年特別企画　若者の生き方を語る～阪神・淡路大震災 25 年を前に～」を開催した。CODE 未来基金を活用してきた若者が現在どのように活動しているか、なぜ今の生き方を選んだのかを各回若者を講師に招き、語っていただいた。この企画を通して、CODE 未来基金の周知を広げるとともに、市民活動を社会が支えるという考え、そして「もう一つの生き方」を選ぶことができる環境づくりへのヒントを探ってきた。シリーズでは近畿労働金庫が共催・協賛企業として集客協力や事業費を支援をいただいた。後援企業の一つ神戸新聞には各回の講師に取材を行い、シリーズに連動した連載記事を掲載していただいた。

〇第 1 回 「お金に依存しない自立した生活をめざして」

（久保陽香さん 「非電化工房」住み込み弟子）

10 月 27 日開催　参加者 36 名

企画シリーズの第 1 回ということでいろいろと模索しながら進めていく回となった。当日は環境や自給自足というテーマに関心が高い方の来場が多かった。久保さんが非電化工房での生活に至るまでの歩みや弟子入り中の現在の生活について語られた。四川でのフィールドワークでの光明村の循環する暮らしを目の当たりにする中で自給自足について学ぶきっかけを得て、屋久島での生活を経て、現在は非電化工房で農業や建築について学ぶ日々を送っている。

	〇第 2 回 「学生のやりたいを見つける」（羽田和真さん NPO 法人 The Peace Front） 11 月 22 日開催 参加者 22 名 第 2 回は、フィリピンフィールドワークに参加し現在は「The Peace Front」で活躍する羽田和真さんを招き、教育や夢をテーマに語られた。参加人数は少なかったものの、会場とのやり取りを密に行うことができ、日本国内の一極化している教育の評価軸など羽田さんが感じる教育の課題やフィリピンでの学びを深めた。 〇第 3 回 「コミュニティナースが取り組む地域支援」 （立浪雅美さん 「園田南」地域包括支援センター） 12 月 22 日開催 参加者 49 名 第 3 回は、ネパールへのフィールドワークを企画し、尼崎市の「園田南」地域包括支援センターで保健師を務め、コミュニティナースとしても活躍する立浪雅美さんが語り手となった。保健師を目指したきっかけからネパールのフィールドワークでの学びと挫折、現在はコミュニティナースという保健師像を見つけて地域と関わり続けている。 〇第 4 回 「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」 （西本楓さん 株式会社「BugMo」COO） 1 月 19 日開催 参加者 43 名 西本楓さんはフィリピンフィールドワークに参加し、四川フィールドワークを企画した。その後、株式会社「BugMo」を起業し、現在は昆虫食をテーマにコオロギプロテインバーを製造、販売している。第 4 回では西本さんが食について関心を持つようになったきっかけや 2 度のフィールドワークでは食というテーマとともに人に寄り添うということの大切さを学んだ。取り組む昆虫食の一般認識などについても語るとともに、会場とのやり取りの中ではなぜ昆虫食という方法を選んだのかなどが話題に上がった。 〇第 5 回 「若者の生き方について考える」（金益見さん 神戸学院大学講師） 2 月 9 日開催 参加者 58 名 最終回となる第 5 回は神戸学院大学の講師、金益見先生を語り手に迎え、金先生の多くの人との出会いのお話や、人生や身近なことを素敵にする方法など若者の生き方の道標となる講演をしていただいた。金先生は若者に対して、「こうあるべき」という答えを出さずに、いろいろな生き方があっていいと述べる中で、若者を後押しする言葉を紹介していただいた。 ④ 若者が多く関わる団体とのコラボ企画 「まなびと」代表の中山迅一さんと話し合いを行い、コラボイベント企画するための意見交換を行った。2019 年度後期は CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年企画を実施したため、コラボ企画は来年度以降の開催をめざす。

※「まなびと」…神戸市北野を中心に地域の学びスペースや学童保育を運営している団体。代表の中山さんは日中 NGO ボランティア研修交流や CODE 未来基金イベントにも参加している。スタッフの多くが学生ボランティア。

⑤ プログラム募集

2019 年度前期募集により、4 月から 9 月までの半年間、立部知保里さん（兵庫県立大学大学院）が CODE インターンとして活動した。立部さんは半年間の間に、NGO ことはじめや食と国際協力などイベントの運営、①のボランティアの日の活動、CODE Letter の作成などを担っていただいた。またフィリピンの救援プロジェクトにも参加し、フィリピン台風支援のフィールドでの大学生のアテンドなども行った。立部さんにはインターン期間満了後もアルバイトスタッフとして引き続き CODE の活動に関わっており、未来基金の運営を一部担っていただいている。

2019 年度は前年に比べ、サポーター数が増え、寄付金額も大きく上昇した。阪神・淡路大震災 25 年特別企画により少しずつ周知が広がっていることが伺える。しかし、未だに活動支出が上回っており、さらなる広報、ファンドレイズを行っていく必要がある。また、一つの活動にのみ注力したことで、昨年の事業計画のうち実施できていない項目も多い。スタッフのみならず、理事、選考委員、そして CODE 未来基金にかかわる若者のさらなる参画が必要となる。

＊2019 年度の主な動き

4/13 まなびとの中山代表と未来基金コラボ企画について打ち合わせ（上野）
4/22 未来基金の運営についてのミーティング（村井理事、吉椿、上野、立部）
5/15 CODE ボランティアの日（上野、立部、原田、羽田、山内、村井理事）
5/20 神戸新聞未来基金インターン取材（立部、吉椿）
5/29 第 4 回阪神・淡路大震災 25 年ミーティング（上野、立部）
6/7 ボランティアの日に関してのヒアリング（上野、山内）
6/12 CODE ボランティアの日（上野、立部、原田さん、山内さん、村井理事）
6/26 25 年企画で MBS 毎日放送を訪問、相談（吉椿）
7/5 まなびと×CODE 未来基金打合せ（上野）
8/5 午後：未来基金ワーキンググループミーティング
（西海理事、宮本理事、村井理事、吉椿、上野、立部）
夜 ：未来基金ワーキンググループミーティング
（室崎代表理事、成安理事、岸本理事、村井理事、吉椿、上野、立部）
9/24 神戸学院大学の金益見先生を訪問、未来基金企画の打ち合わせ
（村井理事、上野）
9/25 神戸新聞取材（震災 25 周年未来基金企画）（村井理事、吉椿、上野、立部）
10/1 25 年企画で MBS 訪問（吉椿、上野）
10/6 CODE ファンドレイジングのためのトレッキング（プレ企画）（村井理事）

	10/7　神戸工科高校を訪問（上野） 10/8　25 年企画で近畿ろうきんと打ち合わせ（吉椿） 10/23　CODE 未来基金ファンドレイジングミーティング（成安理事、上野、立部） 10/26　未来基金震災 25 年企画打合せ（久保さん、神戸新聞竹本記者、上野、立部） 10/27　未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 1 回（久保陽香さん）開催 （室﨑代表、宮本副代表、村井理事、吉椿、上野、立部） 10/30　CODE 未来基金震災 25 年企画打合せ（羽田さん、上野、立部） 11/13　CODE 未来基金震災 25 年企画打合せ（羽田さん、上野、立部） 11/17　未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 2 回（羽田和真さん）開催 （室﨑代表、宮本副代表、村井理事、中川理事、吉椿、上野、立部） 12/9　未来基金震災 25 年企画打合せ・神戸新聞取材（立浪さん、上野） 12/22　未来基金 25 年企画「若者の生き方を語る」第 3 回（立浪雅美さん） （宮本副代表、村井理事、細川、吉椿、上野、立部、原田さん） 1/9　神戸新聞 西本さん取材同行（上野） 1/10　未来基金 西本さん打合せ（上野） 1/19　未来基金 西本さん打合せ（吉椿） 未来基金 25 年企画「若者の生き方を語る」第 4 回（西本楓さん） （室﨑代表、宮本副代表、中川理事、村井理事、芹田元代表、 細川、吉椿、上野、立部、原田さん） 2/3　神戸新聞 金先生取材同行（（上野） 2/9　未来基金 25 年企画「若者の生き方を語る」第 5 回（金益見さん） （室﨑代表、宮本副代表、中川理事、村井理事、細川、吉椿、上野、立部） 3/30　広報ワーキンググループ（CODE Letter、リーフレットデザイン会議）（上野、立部）

事業名	2-(5) NGO オンリーワン戦略講座
実施日時	2019 年 1 月から 9 月
実施場所	JICA 関西
受益対象者の範囲及び予定人数	CODE スタッフ上野智彦
実施内容	JICA 東京と（社）シェアザプラネットの共催で、2019 年 1 月 21 日～9 月 3 日まで全 10 回（12 日間）の講座に上野が参加し、広報やファンドレイジングの手法を学び、CODE のリーフレットのリニューアルを行った。 1/21.22　第 1 回に参加（上野） 2/19　第 2 回に参加（上野） 3/11.13　第 3.4 回に参加（上野） 5/14　第 5 回に参加（上野、立部） 6/3　第 6 回に参加（上野、立部）

	6/4　　第 7 回に参加（上野） 9/2-3　　第 8.9 に参加（上野）

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb（UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト）やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトなどで発信してきた。 現在は、新型コロナウイルス対応の国際アライアンスで 3 名の英語翻訳ボランティアの方々に協力をいただいた。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 40 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、12 年目となる 2019 年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱを村井理事が、以下の講師陣と共に下記の通り実施した。受講人数は約 40 名。（全 15 コマ） 《日程と内容》 9/18（火）　第 1 回　ガイダンス（村井理事） 9/25（火）　第 2 回　ボランティアの起源と意義（村井理事） 10/2（火）　第 3 回　平成時代に刻まれた「ボランティア元年とは？」（村井理事） 10/9（火）　第 4 回　ボランティアでもできる心のケア（村井理事） 10/16（火）　第 5 回　CODE 海外災害援助市民センターの活動について （吉椿、上野） 10/23（火）第 6 回　もう一つの生き方、もう一つの働き方（村井理事） 10/ 30（火）第 7 回　異文化理解と援助（吉椿） 11/ 6（火）　第 8 回　援助の届き難い被災地支援の方策（吉椿）

	11/13（火） 第 9 回　農業支援を通して支援の思想を築く（村井理事） 11/20（火） 第 10 回　災害とジェンダー（斉藤容子さん） 11/27（火） 第 11 回　保護とエンパワーメント（村井理事） 12/4（火）　第 12 回　災害時における地域力と備えの大切さについて（村井理事） 12/11（火） 第 13 回　災害と貧困（吉椿） 12/18（火） 第 14 回　被災者主体と補完性の原理について（村井理事） 1/8（木）　第 15 回　課題と展望(村井理事） その他の講義にも講師として派遣した。 4/16（月）　神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義（吉椿） 6/ 2（土）　神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿） 6/ 9（土）　神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿） ②　インターンシップ受け入れ 昨年に続き、8 月 26 日から 30 日まで 5 日間、学生インターン 2 名を受け入れた。

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 神戸女子大学
実施日時	5 月から 7 月まで、毎週金曜日第 2 限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生約 20 名
実施内容	2015 年度より神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事、上野が講師として授業を行っている。2019 年度の実施内容は以下の通り。全 10 回 《日程と内容》 5/18（金）　ボランティアの歴史　～「セツルメント運動」から災害救援へ～ 5/25（金）　CODE 海外災害援助市民センターの活動について ～困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う～ 6/1（金）　災害と貧困　～貧困脱出と災害復興との関係～ 6/9（金）　異文化理解と支援　～宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する～ 6/15（金）　新たなチャンレンジ　～ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ～ 6/22（金）　女性の生活向上支援と自立　～教育のもたらす意義～ 6/29（金）　長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン ～人為災害と自然災害と戦う人々～ 7/6（金）　紛争後の支援から 13 年、アフガニスタンの今　～平和構築への課題～ 7/13（金）　保護とエンパワーメント

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 講師派遣 ・12/24　ワンワールド・フェスティバル for Youth で 分科会「海外の被災地は私たちとつながっている？」で講義（吉椿 ・2020/1/8 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（上野） ② NGO-JICA 協議会、提言専門委員会への参加 村井理事が提言専門委員を担っているが、2016 年度以降、委員会は休会となっている。

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 復興・被災者支援制度の国際調査事業
実施日時	2018 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
実施場所	関西学院大学災害復興制度研究所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	関西学院大学研究推進社会連携機構・災害復興制度研究所からの委託事業「復興・被災者支援制度の国際調査事業」に CODE から斉藤容子さんを出向させてきた。海外の災害復興制度を調査研究することで、日本の災害復興制度に寄与するもので、任期は 1 年ごとの更新で、最大 2 年間。2020 年 3 月末を持ってこの事業は終了した。なお、斉藤さんは、引き続き主任研究員として関西学院大学災害復興制度研究所に勤務することとなった。（5 年）

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
	① 関西 NGO 協議会の活動への参加 CODE は団体理事として、吉椿が以下のように 2019 年度理事会に出席した。 なお、2019 年度から吉椿は、常任理事となり、KANSAI-SDGs市民アジェンダを通じて

関西の多分野の NGO との関係を深めてきた。

＊総会・理事会への出席

5/22　臨時理事会に出席（吉椿）
5/26　2019 年度定期総会、第 1 回理事会に出席（吉椿）
6/10　第 2 回理事会に出席（吉椿）
7/17　常任理事会に出席（吉椿）
8/7　第 3 回理事会に出席（吉椿）
9/12　補完理事会に出席（吉椿）
10/9　第 4 回理事会に出席（吉椿）
12/9　常任理事会に出席
1/15　第 5 回理事会に出席（吉椿）
3/13　第 6 回理事会に出席（吉椿）
3/23　常任理事会に出席（吉椿）

＊その他

4/5　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ第 6 回分科会「環境」に参加（吉椿）
6/20　G20 大阪市民サミット分科会に出席（吉椿）
9/2　KANSAI-SDG 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿）
9/3　関西地域助成プログラム説明会に出席（吉椿）
9/27　関西 NGO 協議会-JICA 懇談会に出席（吉椿）
10/24　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿）
11/9　関西 NGO 助成プログラム選考プレゼンテーション（上野）
11/13　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿）
11/29　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ第 7 回分科会「食と農」に参加（吉椿）
12/15　ワンワールドフェスティバル for Youth で
分科会「海外の被災地は私たちとつながっている？」で講義（吉椿）
&ブース出展（立部、原田さん、柳瀬さん）
1/27　第 1 回関西 NGO－JICA 協議会に出席（吉椿）
2/4　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ第 8 回分科会「気候変動」に
参加（吉椿）
3/9　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ第 9 回分科会「平和」は中止
3/26　KANSAI-SDGs 市民アジェンダ第 10 回分科会「SDGs　夢洲　万博」
に参加（吉椿）

② コープこうべとの連携

2018 年度は、インドネシアで災害が連続して発生した事により、コープこうべハート基金運営委員会からロンボク島、スラウェシ島にそれぞれ 50 万円ずつ拠出していただい

た。また、例年通り、第3地区などのイベントでレーズン販売も行ってきた。

7/20　コープこうべ平和のつどいでレーズン販売（上野）　＊1－(1)と重複
2/10　コープこうべ ラブコカフェにて登壇（村井理事、上野）
2/16　コープこうべ第 3 地区 ふれあいのまつりで販売（上野）＊1－(1)と重複
2/29　コープこうべ「震災 25 年のつどい」で販売（上野）　＊1－(1)と重複

③ 近畿ろうきん

2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」（預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ）の寄付先団体として選出された。2019 年度は、「笑顔プラス」の寄付として 209,354 円をいただいた。CODE も、2019 年度に近畿ろうきんに預金口座を開設した。

今年度は、講演だけではなく、震災 25 年企画に共催・協賛いただいた。また、ろうきんの講演でご縁をいただいたパナソニックエナジー労働組合洲本支部とフィリピン・バンタヤン島の女性たちの石鹸の製作・保管場所を建設、視察する事業が実現した。このコラボは今後も継続する予定である。

6/18 近畿ろうきん社会貢献預金「笑顔プラス」贈呈式・合同会議に出席
（吉椿、上野）
8/7　近畿ろうきん本店を訪問（震災 25 周年未来基金企画打合せ）（吉椿）
8/9　近畿ろうきん神戸支店に「笑顔ぷらす」の手続き（吉椿）
10/2　近畿ろうきん笑顔プラス手続き（吉椿）
10/3　中部労働者福祉協議会 2019 年度研究集会で講演（吉椿）　＊6-(2)と重複
10/15 パナソニックエナジー労働組合でフィリピン台風の講義（吉椿）＊6-(2)と重複
10/24 自治労但馬丹後ブロック青年女性部定期総会で講演（吉椿）　＊6-(2)と重複
10/27 未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 1 回（久保陽香さん）開催
（室﨑代表、宮本副代表、村井理事、吉椿、上野、立部）
10/31 近畿ろうきん兵庫地区運営委員会で講演（吉椿、上野）　＊6-(2)と重複
11/17 未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 2 回（羽田和真さん）開催
（室﨑代表、宮本副代表、村井理事、中川理事、吉椿、上野、立部）
11/22　近畿ろうきん神戸支店北須磨出張所にて講演（上野）　＊6-(2)と重複
12/22 未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 3 回（立浪雅美さん）
（宮本副代表、村井理事、細川、吉椿、上野、立部、原田さん）
12/16-21 パナソニックエナジー労働組合のフィリピン視察のアテンド（吉椿）
1/19　未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 4 回（西本楓さん）
（室﨑代表、宮本副代表、中川理事、村井理事、芹田元代表、細川、吉椿、上野、立部、原田さん）
2/9　未来基金震災 25 年企画「若者の生き方を語る」第 5 回（金益見さん）
（室﨑代表、宮本副代表、中川理事、村井理事、細川、吉椿、上野、立部）

④　北陸学院大学（JICA 草の根技術協力事業）

●これまでの経緯

2013 年 11 月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan（現地名 Yolanda）は、フィリピン中部のレイテ、サマール、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODE は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014 年 1 月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC（Southern Partner Fair Trade Center）、FIDEC（Fisherfolk Development Center）や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。

また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ（Association）を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO とより強固な信頼関係を築いてきた。

2014 年 2 月に 150 万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の事務員と吉椿が 3 月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE に集まった寄付金約 300 万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の 6 つのバランガイ（最小行政単位）にボートを提供し、3 世帯の漁民で 1 つのボートを共有することになった。

提供されるボートの種類、数、共有方法などは、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と各バランガイの住民組織（Association）が協議しながら決めている。

2014 年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作が開始され、2015 年 2 月にはボート 2 艘がバンタヤン島のバランガイ Pooc の被災漁民に提供され始め、これまでに Pooc、Ocoy、Aningan、Victria、Polambato の 5 つの地域に7艘のボートを提供した。残りの 5 艘は、材料不足の影響で遅れていたが、2016 年 12 月にすべてのボートの提供が完了した。その後の住民教育に関しては、北陸学院との JICA 草の根技術協力事業の中で実施していくことになった。

2016 年 12 月より、JICA 草の根技術協力事業（新・草の根協力支援型）のJICA 北陸の案件として、北陸学院大学（田中純一准教授）とのコラボで CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で実施している。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出し、女性の地位向上をめざす。また、地域の防災リーダーの育成をめざし、コミュニティ防災に貢献する。

2017 年度は、田中准教授と共に現地を 2 回訪問し、現地の 2 ヵ所（Pooc、Okoy）のアソシエーションの女性メンバーたちと共にリソースマッピングのワークショップを実施し、地元で使える資源を住民自身が再発見する事ができた。その中から現地の植物フレーバーなどを用いた石鹸作りの試作を行ってきた。

2018 年度は、石鹸作りの質の向上や製作するための環境を少しずつ整えてきた。

また、石鹸販売に向けたパッケージの試作品作りも行われ、アソシエーションのメンバー

	間での売買も始まっている。他方、防災に関しては、2019 年 2 月に現地訪問した際には、小学校で防災ダッグの紹介や避難者カード作成に向けたワークショップを行った。 2019 年度は、バンタヤン島 2 か所のバランガイで、女性たちのための石鹸の製作と保管スペースの建設をすることとなった。1棟は、パナソニックエナジー労働組合洲本支部の西島執行委員長のご尽力で 2019 年末にバランガイ OKOY で完成した。もう 1 棟のバランガイ POOC のものは、建設用地の調整つき次第着工に入る予定であったが、新型コロナウイスルの影響で現在、中断している。また、小学校の子どもたち向けの避難カードも、現地のより詳細な地図を落とし込んで完成、現地へ郵送した。 今回、コラボさせていただいたパナソニックエナジー労働組合の西島委員長からは、このような連携を毎年実施したいとのお言葉をいただいたことから、引き続きこの関係を深めていく。現在、セブのカウンターパートの JOJO さんから新型コロナの状況を報告いただいている。 ＊2019 年度の主な動き: 4/26 北陸学院大学田中教授と JICA 草の根事業打合せ（吉椿） 5/10 JICA 草の根フィリピン事業のテレビ会議（金沢）に出席（田中教授、吉椿） 5/16 関西大学永松教授とフィリピンフィールドワークの打合せ（吉椿、立部） 5/17 第 51 回食と国際協力（フィリピン）で講義（立部） 5/22 北陸学院大学田中教授と JICA 草の根事業打合せ（斉藤さん、吉椿） 7/10 北陸学院大学田中教授と JICA 草の根事業の打合せ（斉藤さん、吉椿） 7/22 関西大学永松ゼミフィリピンフィールドワークの事前講義（立部） 8/16～21 JICA 草の根協力事業でフィリピン派遣 （北陸学院大学田中教授、吉椿、原田） 8/25～31 関西大学永松ゼミフィリピンフィールドワークに同行（立部） 10/15 パナソニックエナジー労働組合洲本支部でフィリピン台風の講義（吉椿） ＊6-(2)と重複 10/26～11/1 JICA 草の根協力事業でフィリピン派遣（田中教授、斉藤さん） 11/1 北陸学院大学田中教授と JICA 草の根事業の打合せ（斉藤さん、吉椿） 12/16-21 JICA 草の根協力事業でフィリピン派遣&パナソニックエナジー 労働組合洲本支部のフィリピン視察のアテンド（田中教授、吉椿） ＊6-(2)と重複 12/23 関西大学永松ゼミフィリピンフィールドワーク報告会に参加（吉椿、立部） ⑤ 2020 世界災害語り継ぎフォーラム（Tell-net） 10 年ぶりに Tell-net が再開し、阪神・淡路大震災から 25 周年の 2020 年 1 月に神戸でフォーラムが開催された。CODE は吉椿が実行委員会の委員になっており、分科会「語り継ぎと交流」を座長である坂戸勝、元国際交流基金理事（元ニューオリンズ総領事）と担当した。分科会では、CODE のカウンターパートである CODE のカウンターパートであるエコ・プラワットさん（インドネシア）や張国遠さん（NGO 備災センター）の3者を招へいを招聘し、議論を交わすことができた。なお、バングラデシュのサイドゥール・ラ

	ーマンさんは急用のため来日することでできなくなった。 ＊主な動き 2018 年 6 月 21 日　第 1 回準備委員会は欠席 2019 年 2 月 19 日　第 2 回準備委員会に出席（吉椿） ＊フォーラムの概要： 日　時：2020 年 1 月 24 日～26 日（3 日間） 場　所：兵庫県公館、JICA 関西 内　容：24 日　基調講演（堀内正美） 鼎談（兵庫県知事、竹下景子、堀内正美） 25 日　分科会（ミュージアム、ツーリズム、交流、ジオパークなど 6 つ） 26 日　全体会議 主　催：2020 世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会（委員長：小林郁雄） ⑥　若者の団体、教育機関とのネットワーク 2017 年度は、未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノヂカラプロジェクト」、「神戸大学　PEPUP」、「まなびと」や「神戸大学救援隊」、「関西学院大学ニューマンサービスセンター」、「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員会」とは、海外インターン送り出し事業局の面談委員を吉椿が担っていることや未来基金四川フィールド研修ではアイセックのメンバーが中国四川省で企画を実施した。 今年度は、例年通り舞子高校、葺合高校、神港橘高校、神戸龍谷高校、神戸工科高校などの高校での講演以外にも花園高校や桃山学院高校、SDGsやワンフェスユースなどで高校生と連携する機会もあり、日中 NGO ボランティア研修交流事業でも高校生たちと共に海外の被災地を訪ねることができた。 ＊主な動き： 4/13　まなびとの中山代表と未来基金コラボ企画について打ち合わせ（上野） 6/23　G20 ユースサミット分科会「若者と防災」に登壇（吉椿） 7/5　まなびと×CODE 未来基金打合せ（上野） ⑦　その他の団体との連携 5/11　COMING KOBE にブース出展（被災地 NGO 協働センターとコラボ）（立部） 5/30　マーシーレリーフ（シンガポール）石関さんヒアリング（村井理事、吉椿） 7/31　郵船ロジスティックス訪問（村井理事、吉椿） 8/25～31　関西大学永松ゼミのフィリピンフィールド調査のアテンド（立部） 9/30　花園高校生ヒアリング（吉椿） 10/4　桃山学院高校 SDGs授業でコメンテーター（吉椿） 10/9　JOCA（青年海外協力協会）大阪と外務省 NGO 研究会に出席（吉椿）

	10/14　神戸学院大学生ヒアリング（吉椿） 10/28　舞子高校環境防災科で講演（吉椿）　*6-（2）と重複 10/29　芦屋セントマリア病院諫山さん（救急救命士）ヒアリング（吉椿） 11/30　ひょうご防災フェスタに参加（上野、立部） 12/11　神港橘高校タウンミーティングで講演（吉椿）　*6-（2）と重複 1/22　国際防災・人道支援フォーラム 2020 に参加（吉椿） 1/28　国際復興フォーラム 2020 に参加（吉椿） 1/31　神戸龍谷高校で講演（吉椿）　*6-(2)と重複

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 2013 年 11 月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築いてきた。引き続き本ネットワークとの連携を深め、防災や今後の災害救援に活すことを確認してきた。 ② 2008 年の四川大地震以降、つながっている四川の NGO「NGO 備災センター（上厚公益服務センター）」、「四川尚明公益発展研究センター」、「壱基金」などとの連携を、2015 年から実施している日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた。2018 年度は、四川地震 10 周年のシンポジウムを共同開催してきた。 ③ 2015 年 4 月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016 年度は、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会パタンジェ」との関係を構築してきた。 ④ 2006 年のインドネシア・ジャワ中部地震以降、連携しているエコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）や彼の建築家のネットワーク（インドネシア建築協会など）を通じて、2010 年の青海省地震や 2018 年のロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波の支援も展開してきた。

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所

受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	2019 年度 CODE 寺子屋は、CODE 理事経験者 3 名を講師に鼎談という形で開催した。 阪神・淡路大震災からの 25 年間を振り返り、それぞれの立場から、NGO、市民社会、災害支援について語っていただいた。また、震災 25 年関連で来日した張国遠さん（中国）、エコ・プラウォトさん（インドネシア）をお迎えして寺子屋特別編を開催した。 ＊「阪神・淡路大震災から 25 年　四半世紀の歩みと”いま”」 ～NGO・市民社会・災害支援のこれから～ 日　時：2019 年 12 月 8 日 場　所：兵庫県立大学防災キャンパス大教室 登壇者：芹田健太郎（神戸大学名誉教授/CODE 前代表理事） 松本誠（市民まちづくり研究所所長/CODE 前理事） 室崎益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科課長・教授/CODE 代表理事） 参加者：58 名 （CODE 関係の参加者：室崎代表、芹田前代表、松本前理事、宮本副代表、中川理事、村井理事、細川、吉椿、上野、立部） ＊CODE 寺子屋特別編第 1 回「中国の NGO 現状」　＊1-(2)と重複 日　時：2020 年 1 月 23 日 場　所：CODE 事務所 講　師：張　国遠さん（新安世紀教育安全科技研究院院長） 参加者：15 名 ＊CODE 寺子屋特別編第 2 回「社会や文化につながる建築」　＊1-(4)と重複 日　時：2020 年 1 月 28 日 場　所：CODE 事務所 講　師：エコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授） 参加者：14 名

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定	不特定多数

人数	
実施内容	2019 年度(2020 年 5 月末時点)の会員の状況: 正会員　: 23(団体 2、 個人 21) 賛助会員:121(団体 1、個人 120)　計:144 名・団体 ＊この数年の会員数の推移: ・2014 年度　92 名・団体 ・2015 年度 120 名・団体 ・2016 年度 147 名・団体 ・2017 年度 125 名・団体 ・2018 年度 109 名・団体 2015 年度から 2016 年度にかけては、ネパール地震や NHK の番組に出演した影響で新規の会員、寄付者が一時的に大幅に増えた。その後も、会員だけではなく、新規寄付者にも年 3 回の CODE レターの送付を行ってきた。だが、新規の会員や継続の会員フォローアップが十分でなかったために賛助会員が少しずつ減少してきた。 2019 年度は、賛助会員の山本健一さんなどが、積極的に広報をしていただいた事もあり、賛助会員が大幅に増えた。また、京都の NGO、JIPPO が解散したことから退会した。 ＊リーフレットのカラー刷新 2019 年度に上野が JICA の研修で学んだノウハウを生かして、新しいリーフレット案を を作成した。 ＊ソーシャルアクションリング(バナー広告) 2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、今年度も年間 15000 円の広告費を得ている。 ＊Gochiso(ポイント寄付) Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを 2017 年度から取り入れてきたが、レストランは比較的高級な店が多く、CODE とつながる関係との接点が少ないように思われる。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。

＊「阪神・淡路大震災から 25 年　四半世紀の歩みと”いま”」　＊5-(1)と重複
～NGO・市民社会・災害支援のこれから～
日　時：2019 年 12 月 8 日
場　所：兵庫県立大学防災キャンパス大教室
登壇者：芹田健太郎（神戸大学名誉教授/CODE 前代表理事）
松本誠（市民まちづくり研究所所長/CODE 前理事）
室崎益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科課長・教授/CODE 代表理事）
参加者：58 名

＊CODE 寺子屋特別編第 1 回「中国の NGO 現状」　＊1-（2）と重複
日　時：2020 年 1 月 23 日
場　所：CODE 事務所
講　師：張　国遠さん（新安世紀教育安全科技研究院院長）
参加者：15 名

＊CODE 寺子屋特別編第 2 回「社会や文化につながる建築」　＊1-（4）と重複
日　時：2020 年 1 月 28 日
場　所：CODE 事務所
講　師：エコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）
参加者：14 名

② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。
5/10　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（上野）　＊4-(2)と重複
5/17　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事）　＊4-(2)と重複
5/24　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事、上野）　＊4-(2)と重複
5/31　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井）　＊4-(2)と重複
6/4　龍谷大学政策学部「地域レジリエンス論」で講義（吉椿）
6/7　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事）＊4-(2)と重複
6/14　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事、上野）＊4-(2)と重複
6/19　中日安全技術研修（中国成都市）で講義（吉椿）　＊1-(2)と重複
6/21　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事、立部）＊4-(2)と重複
6/23　G20 ユースサミット分科会「若者と防災」に登壇（吉椿）　＊4-(5)と重複
金光教泉尾教会青年大会で講演（上野）
6/25　葺合高校市民専門講師として授業（上野、立部）
6/26　葺合高校市民専門講師として授業（上野、立部）
6/28　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）　＊4-(2)と重複
6/29　神戸学院大学社会貢献学入門で講義（吉椿）　＊4-(1)と重複
7/5　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）　＊4-(2)と重複
7/6　神戸学院大学社会貢献学入門で講義（吉椿）　＊4-(1)と重複

	7/12　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事、立部）＊4-(2)と重複 7/27　兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義（吉椿） 7/30　神戸大学総合教養科目「阪神・淡路大震災 B」で講義（吉椿） 8/27　神戸学院大学インターン生にフィリピンの講義（吉椿） 9/18　台湾国立政治大学の国際シンポジウムで報告（吉椿）　＊1-(2)と重複 9/24　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 10/1　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 10/3　中部労働者福祉協議会 2019 年度研究集会で講演（吉椿）　＊4-(5)と重複 10/4　桃山学院高校 SDGs授業でコメンテーター（吉椿）　＊4-(5)と重複 10/8　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 10/15　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 パナソニックエナジー労働組合でフィリピン台風の講義（吉椿）　＊4-(5)と重複 10/22　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 10/24　自治労但馬丹後ブロック青年女性部定期総会で講演（吉椿）　＊4-(5)と重複 10/28　舞子高校環境防災科で講演（吉椿）　＊4-(5)と重複 10/29　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、上野）　＊4-(1)と重複 10/31　近畿ろうきん兵庫地区運営委員会で講演（吉椿、上野）　＊4-(5)と重複 11/5　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11/12　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11/19　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11/22　近畿ろうきん神戸支店北須磨出張所にて講演（上野）　＊4-(5)と重複 11/30　神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナールで講演（吉椿） 12/3　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 12/10　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 12/11　神港橘高校タウンミーティングで講演（吉椿）　＊4-(5)と重複 12/15　ワンワールド・フェスティバル for Youth で分科会　＊4-(5)と重複 「海外の被災地は私たちとつながっている？」で講義（吉椿、立部、原田さん） 12/17　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 12/23　関西国際大学「国際防災協力」で講義（吉椿） 12/24　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 1/6　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 1/8　龍谷大学「国際 NGO 論」で講義（上野）　＊4-(5)と重複 1/17　「日中比較からみえてくる災害ボランティアの意義と課題」で講演（吉椿） ＊1-(2)と重複 1/20　神戸工科高校にて講義（上野） 1/21　神戸工科高校にて講義（上野） 1/25　2020 世界災害語り継ぎフォーラム分科会「語り継ぎと交流」で報告 （張国遠さん、エコ・プラウォトさん、吉椿）　＊4-(5)と重複 1/30　神戸龍谷高校で講演（吉椿）　＊4-(5)と重複

	2/2　「防災とボランティアの集い」で登壇（吉椿） 2/10　コープこうべ ラブコカフェにて登壇（村井理事、上野）　＊4-(5) と重複 2/12　神戸新聞記者研修「震災 25 年勉強会」で講演 （飛田敦子さん、宮定章さん、吉椿） 2/18～19　愛媛大学（学生ボランティア調査研究プロジェクト）で講演（吉椿） 2/28　関西国際大学外国人研修で講演（吉椿） 3/4　「メコン河流域の暮らしと文化」（姫路）で講演（吉椿） 3/9　大阪大学と共催で新型コロナの学習会「中国・台湾から学ぶ」（第 3 回） で報告（吉椿、上野、立部）　＊1-(5)と重複 3/18　大阪大学と共催で新型コロナの学習会「社会心理とデマ」（第 4 回） に参加（吉椿、立部）　＊1-(5)と重複 3/27　大阪大学と共催で新型コロナの学習会（第 5 回）で報告（吉椿）　＊1-(5)と重複 3/25　国際アライアンス「IACCR」第 1 回で報告（吉椿）　＊1-(5)と重複 5/27　福井大学でコロナ支援の講演（吉椿）　＊1-(5)と重複 5/29　レスキューストックヤードにコロナ支援の講義（吉椿）　＊1-(5)と重複 5/30　ひょうご支え合い基金でコロナ支援の報告（吉椿）　＊1-(5)と重複

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地へ約 1000 通発送 インターネットは不特定多数
実施内容	2013 年度よりインターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、ホームページも 2014 年度にリニューアルした。また、2019 年度より学生ボランティアの原田梨央さんの協力でインスタグラムも開始し、若い世代に向けた発信も試みている。 現在、真如苑の基盤強化の助成金を活用して、ホームページの刷新を行っている。 4/22　WEB ボランティアの澤さんとホームページ刷新打合せ（上野） 1/30　HP リニューアルに関する打合せ（上野、立部、船曳さん） ＊CODE レターの状況 2016 年度 9 月発行の Vol.56 より機関誌「CODE レター」をカラー化し、一定の評価を得ている。 2019 年度は、3 回、各 1500 部発行し、以下の通り会員、寄付者に発送した。 Vol.62（2019/5/9 発行）は、964 部を発送 Vol.63（2019/7/31 発行）は、955 部を発送 Vol.64（2020/1/31 発行）は、999 部を発送

	＊SNS の状況 ・FaceBook CODE の FaceBook に「いいね」をした人は、1484 人（2020 年 5 月末時点）である。 （2015 年度末は 648 人、2016 年度末は 1125 人、 2017 年度末 1295 人、2018 年度末 1407 人）、2019 年度末 1426 人 ・Twitter のフォロワー：465 人 ・インスタグラムのフォロワー：567 人 その他、ソーシャルアクションリングなどの媒体を通じても CODE の活動を広報してきた。

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011 年 10 月度理事会で CODE AID を立ち上げることを決定したが、2012 年度になり認定 NPO 法人の取得には最低 2 年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10 周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。 なお、理事候補は浅野壽夫氏（神戸学院大学教授）、大森保美氏（株式会社大森工業社長）、林晃史氏（弁護士）、芹田健太郎現 CODE 代表理事（神戸大学名誉教授）の 4 名、監事候補は安井一浩氏（公認会計士・神戸学院大学准教授）である。2013 年度の総会および懇親会「CODE のタベ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014 年の「CODE のタベ」にも大森氏はご参加いただいた。 2018 年度より本格的に認定 NPO 法人の取得に向けて動き出し、会計に関しても今中壽一税理士（ひまわり会計事務所）にご協力いただき、これまでの会計処理を修正し、認定取得に向けて、市民活動センター神戸（認定 NPO 法人相談窓口事業を神戸市から受託している団体）や神戸市などと協議を行ってきた。また、榛木理事とも認定 NPO 法人を取得いた 2 団体（テラルネッサンス、アクセス）を訪問し、ヒアリングを行った。 2019 年度の主な動き： 4/3 今中税理士と認定に関する協議（細川、吉椿） 4/8 榛木理事、村井理事と進捗状況の共有（榛木理事、村井理事、吉椿） 芹田代表と進捗状況の共有（芹田代表、吉椿） 4/11 今中税理士による 2018 年度会計のチェック（細川） 4/12 サポートセンター（市民活動センター神戸）を訪問（今中税理士、吉椿） 5/13 サポートセンター（市民活動センター神戸）を訪問（今中税理士、吉椿） 5/15 今中税理士による 2018 年度会計の検討（細川） 5/29 認定 NPO 取得の相談で市民活動センター神戸を訪問（今中税理士、吉椿）

	6/5　認定 NPO 取得の相談で神戸市市民協働課を訪問（今中税理士、吉椿） 6/13　認定 NPO 法人の相談で神戸市訪問（今中税理士、吉椿） 7/30　今中先生との会計業務打合せ（細川、上野）